

研究題目

「自分で考えて判断する学校」へのアプローチ
～コロナ禍での校長の学校経営ビジョン・学校運営と
「自立した生徒」の育ちの姿～

- 1 研究のねらい
- 2 経過と内容
 - 取組 ア：コロナ禍の中での学校運営の視点
～「壁がある だから行く」を中心軸に据える～
 - 取組 イ：学校経営ビジョンを基盤とした学校経営
生徒の姿ウ：「自立した生徒」の育ちの姿
- 3 まとめ

長野県箕輪町立箕輪中学校 校長 尾形 浩
赤羽 隆

1 研究のねらい

令和2年度末からの10ヵ月を振り返ってみると、コロナ禍にどう対応すべきか、学校現場は、教職員が主体的・自立的に動いて、生徒たちの安全と安心の確保、確かな「学び」と豊かな「心」の育ちに全力で立ち向かってきた。その姿は、一人ひとりの生徒の「自立していく動き」にも大きく影響していたのではないかと思う。

コロナ禍は、それまで当たり前に行われていた教育活動に数々のブレーキをかけたものの、これまでのような、「与え続けたり、人の指示を待っていたりするような教育」では、コロナ禍に太刀打ちできないことを我々に教えてくれた。

これからは、子どもも教職員も、誰かが決めてくれるのを待つのではなく、「自分で考え、判断していく」学校づくりが求められていると痛感し、次のア・イの取組とウ：生徒の姿から、「自分で考えて判断する学校」へのアプローチを捉えていくこととした。

取組ア：コロナ禍の中での学校運営の視点

取組イ：学校経営ビジョンを基盤とした学校経営

生徒の姿ウ：「自立した生徒」の育ちの姿

2 経過と内容

取組ア：コロナ禍の中での学校運営の視点

～「壁がある だから行く」を中心軸に据える～

(1) 本校で取り組む方向性を明確に示す一言

令和2年2月27日(木)夕刻、政府による突然の「全国一斉休校」の指示、現場は混乱の極み、高校入試への対応・卒業式・3月の学校運営等、緊急の対応が求められた。夜8時、残っていた学校運営委員の意見・要望を基に、町教委とも連絡をとり、校長は次頁の対応策【次頁「資料1」参照】を翌日の臨時職員朝会で提示した。

(※翌日の朝に方向性を示すスピード感が肝要)

前代未聞の事態だからこそ、柔軟な発想で対応する。今こそ、大人の「課題解決力」を示す。全職員が協働して、スクランブル体制で臨む。すべては生徒のために考え行動する。この姿勢を一言で表したのが「壁がある だから行く」である。

具体的に取り組むべき4点を次のように示した。

- ① 3年生が無事受検、卒業できる体制を構築する。
- ② 1・2年生が、学校でない環境の中で、自律した生活をおくれるような事前指導を考える。
- ③ 臨時休校中の、生活面・学習面・保健指導面での具体策を練り、3月3日(火)までの間に事前指導(学級・放送での一斉指導等)を行う。
- ④ 3月2日(月)～3月3日(火)までの必要指導時数を洗い出し特別時間割を柔軟に編成する。

限られた時間の中で、管理職は自校で取り組む方向性を明確に示す、その下で、各担当者は対応策を具体化し、生徒に分かりやすく、熱意をもって伝える。2月28日(金)～3月3日(火)までの3日間は、我々に「自分で考えて判断する学校」の必要性を教えてくれた。

令和元年度の卒業式は250名の卒業生とその保護者のみの参加で時間を短縮して実施した。(教職員も含めて約600名)その中で、卒業生の歌だけではどうしても歌わせたいという3学年職員の熱い思いがあった。

しかし、本校の規模では体育館での合唱は無理。諦めかけた中、出てきた案が中庭での合唱。それを校舎の1～3階の廊下から見守る保護者に向かって感謝の気持ちで歌おうという方向が確認された。

当日は晴天に恵まれ、卒業式後に中庭に静かに移動した卒業生は、心を込めて卒業生の歌「正解」を歌いあげて巣立っていった。「壁がある だから行く」を実感した1コマであった。【「資料2」参照】

資料1

令和2年2月28日(金)
箕輪中学校

壁がある だから行く

※ 箕輪町の小中学校では、3月4日(水)～15日(日)臨時休校に入る予定です。
○3月3日(火)までに事前指導 ○3月16日17日18日は臨時登校日 16、17日は半日

1 私達の受け止め・・・政府の急な施策に対する戸惑い・不満があることは重々わかります。ということは大前提として、この課題にどう立ち向かうのか、今こそ我々の「課題解決力」が問われている、探められているのではないかと思います。

※ 今まで経験したことのない課題に対して・・・
※ 卒業間近のこの時期、どう対処したらいいかという戸惑いに対して・・・

いるんじゃないですか。どう立ち向かえばいいの。我々の英知を結集して、力を合わせて、「だから行く」の精神でいきましょう。

(1) 3年生が無事受験を終え、卒業できる体制を構築する
(2) 1・2年生が、学校でない環境の中で、自律した生活をおくれるような事前指導を考える。
(3) 臨時休校中の、生活面・学習面・保健指導面での具体策を練り、3月3日(火)までの間に事前指導(学級・放送での一斉指導等)を行う。
(4) 以上のことを考え、3月2日(月)～3月3日(火)までの特別時間割を考える。
必要な教科の時間数、学級指導の時間、学年指導の時間等。
全校一斉指導は、放送を活用して、担当者が行う。(生活・保健・学習等)

2 本校の対応

① 何のために臨時休校になるのか
ねらいを確実に伝える、目的は何かを明確に示す

③ 生活面での指導(三浦)
・プリントを基にしたの一斉放送
・担任が後付け指導
※社会体育施設もX～3/22
※部活動もなし

② 趣旨・現況を丁寧に説明(教頭)
・2/28 8:30 一斉放送(教頭)
・2/28 家庭通知①、メール
・3/3 家庭通知②、メール

④ 保健指導面での指導(下郷)
・プリントを基にしたの一斉放送
・担任が後付け指導

⑤ 学習面での指導・・・松田、橋爪(自学ノートを最大限活用できるチャンス。得点力をつける時)
ア 3年生に向けての受験対策(3学年)
イ 1・2年生に向けての休校中の家庭学習のやり方指導...5教科の教科担任が授業で具体的にを行う。
○授業の中で(教科書を再読、例題を解く、問題集と組み合わせるなど)、教科書の活用を丁寧に指導
○オンラインラーの活用指導(特設で、優先的に1・2年生1時間ずつ体験学習)：有賀、田口
ウ 本を読む・・・図書館から1人5冊程度まで貸出し(三浦)返却は3月16日、17日
エ 自学ノートの活用
※ ③④⑤をA3 両面一枚に印刷し、ワンパッケージとして3月2日、3日の一斉指導に活用したい。

⑧ 中止・取りやめ・縮小
×給食(北原)
×同窓会(宮原)
×留明会(大塚)中止
×3送会 等
◇卒業式の中身：実質なし
◇修学旅行は延期8・9月

⑥ 緊急特別時間割の作成(宮原)
・3年生のために(受験・別れ)
・臨時休校に入る事前指導を行う時間を確保すること(各教科・学年の要望)
・臨機応変、緊急対応用として柔軟に(各教科最低1時間+オンラインラー1時間+どうしても必要な教科+学年5時間程度)で計20時間程度

⑦ 配慮を要する生徒・家庭への具体的な対応
(下郷・小松・特別支援)
・個別相談への対応等
・柔軟に、丁寧に、つなぐ
・温かく、優しく、

⑨ 臨時休校中、どんな生活を送れるか。自分で自分を律する力を発揮してほしい。
我々の今までの指導の成果が問われる時でもある。自律した生活を通じて自立した生徒を育てるチャンスととらえたい。

資料2

◎3/18 「本気」学年の卒業式 「直向」(ひたむき)を胸に巣立つ!

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、卒業生と保護者、学校職員による卒業式でしたが、卒業生の皆さんは、堂々と胸を張って、それぞれが次のステージに向けて大きく羽ばたいていきました。3年生の先生方から送られた「直向」(ひたむき)という言葉が胸に・・・

その後、中庭で卒業生が歌った式歌「正解」の歌声は、3棟の1階・2階・3階の廊下、東西の渡り廊下で見守る保護者の皆様の胸に熱く届いたことと思います。思い出に残るワンシーンとなりました。



「壁がある だから行く」・・・箕輪中3年間で学んだ既習経験を基に、知恵を出し、へこたれずに、仲間との関係を築けば、必ず壁は乗り越えられる。「こころざし高く、一歩前へ」ご卒業おめでとう。

(2) メリットを最大限に活かすデメリットも逆手にとって活かす発想をもつ

令和2年4月、入学式直後に再び臨時休校に入った。新年度の出鼻をくじかれたわけであるが、校長は、生徒たちに始業式で、本校のめざす生徒像は「自立した生徒になる」、

そして自立した生徒とは、

- | |
|--|
| <p>A 自分と向き合うことのできる生徒</p> <p>B 仲間との関係を築くことのできる生徒</p> <p>C 社会とのつながりを自覚する生徒</p> |
|--|

の3つの姿であることを具体的に熱く伝えた。

そのため、「臨時休校中であっても、いや臨時休校中だからこそ、自立した生徒の姿『A自分と向き合うことのできる生徒』を意識し、自分の生活を自分で創っていくことを通して自律の気持ちを育む絶好の機会である」と、この事態を前向きに捉えるよう指導することができた。約1ヵ月間、生徒たちは大変落ち着いて、家庭で学習課題に取り組んだ。

その間、教職員は校内研修を通じて各自の教科指導力と生徒指導力の向上に取り組んだ。研究主任が「学び合いのある授業づくり」の基本を、適応指導コーディネーターが「配慮の必要な生徒への対応」の基本を、若手教師が「日頃の部活指導において大切にしている指導方針」を語り、教師自身が同僚から学び合う機会を設けた。また、教科指導力のある国語科のF教諭からは、自らの「国語の授業」と「道徳の授業」で大切にしている指導の具体について、全職員が体育館で講話を聴き多くの刺激を受けた。5月には、特別支援教育課の指導主事を招き「多様性を包みこむ生徒指導の基本」について学ぶことができた。60名を超える多くの教職員がいるメリットを活かし、得意分野の指導の具体について学ぶことができたことは、同僚性を高める上でも有意義な時間となった。校内研修においても、「自分で考えて判断する学校」のあり方が問われた時であった。

5月中旬からは分散登校が始まった。教職員からは、学級を半分に分けずに授業を行いたいと願いが出された。しかし、本校は生徒数720名と県内で5番目に生徒数が多い大規模校であり、生徒数の多さ・学級数25学級の多さがデメリットとなり、大きな壁となって立ちだかった。そんな時、一定の距離がとれる大きな教室があればいいなという声をヒントに、2つある体育館を教室に見立てたらどうかというアイデアが出された。床面積であれば、4学級が入っても12学級分の広さが確保できる。大型プロジェクターで

デジタル教科書を大写しすれば最後方からでもクリアに見ることができる、4クラス合同であれば、授業者以外の同教科の教員4～5名でTT指導ができる等、可能性が見えてきた。3～4学級合同授業はどうやればいいのか、自然発生的に、教科会で教材研究が始まった。やったことがないからこそ、やってみる。学級数の多さのデメリットを逆手にとった合同授業、「壁がある だから行く」の行き方は多様である。その実現のために、

2 学年別分散登校の日程(学年、午前・午後の部、欄上から「だれが」「どこで」「何を」)

| | 18日(月) | 19日(火) | 20日(水) | 21日(木) | 22日(金) |
|----|--|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1年 | 午前 1・2・3・7組 2家・集会・1理・4理 5教科(学級授業) | 全学級 1237社体456中体 5教科(全学級) | 全学級 7教室 ※1 5教科(学級授業) | 4・5・6組 2家・集会・1理 道徳・学、技能教科 | 全学級 1237社体456中体 5教科(全学級) |
| | 午後 4・5・6組 2家・集会・1理 5教科(学級授業) | | | 1・2・3・7組 2家・集会・1理・4理 道徳・学、技能教科 | |
| 2年 | | 2・3・4組 2家・集会・1理 道徳・学、技能教科 | 全学級 1567社体234中体 5教科(全学級) | | 1・5・6・7組 2家・集会・1理・4理 5教科(学級授業) |
| | 午前 全学級 1567社体234中体 5教科(全学級) | 1・5・6・7組 2家・集会・1理・4理 道徳・学、技能教科 | | 全学級 1567社体234中体 5教科(全学級) | 2・3・4組 2家・集会・1理 5教科(学級授業) |
| 3年 | | | 全学級 7教室 ※2 5教科(学級授業) | 全学級 1234社体567中体 5教科(全学級) | |
| | 午前 全学級 1234社体567中体 5教科(全学級) | | | | 全学級 1234社体567中体 5教科(全学級) |

3 学年別分散登校の日課

| | 午前の部 <40分授業×5コマ> | 午後の部 <40分授業×5コマ> |
|------|------------------|---------------------|
| 登校 | 7:50(各学級へ) | 12:20(各学級へ) |
| 朝学活 | 8:00~8:15 | 昼学活 12:30~12:45 |
| 第1時 | 8:30~9:10 | 第1時 13:00~13:40 |
| 第2時 | 9:20~10:00 | 第2時 13:50~14:30 |
| 第3時 | 10:10~10:50 | 第3時 14:40~15:20 |
| 第4時 | 11:00~11:40 | 第4時 15:30~16:10 |
| 第5時 | 11:50~12:30 | 第5時 16:20~17:00 |
| 完全下校 | 12:45(電車13:25) | 完全下校 17:15(電車18:02) |

教務主任が立てた、右の2・3のきめ細やかな指導計画が機能したのは言うまでもない。

2つある体育館に2つの学年（各7学級）を午前と午後、4学級と3学級に分けて、1コマ40分×5コマの5教科の合同授業を実施。他の1つの学年は、7つの特別教室を使用して授業。週1回は技能教科も実施。大規模校でもやればできる手ごたえを得た。

05/18（月）～22（金）の学年別登校期間は、40分×5教科の合同授業を体育館でも行いました。皆、落ち着いて学んでいます。



○使用後は毎日、先生方が机・いすを消毒しました。

取組Ⅰ：学校経営ビジョンを基盤とした学校経営

「自分で考えて判断する学校」づくりに必要不可欠なものは、校長の経営ビジョンである。学校づくりの方向を明確に示すことはもとより、学校運営や授業づくり、生徒指導で迷ったり立ち止まったりした際に、指導のあり方を振り返る拠り所でありたい。

（1）皆でめざす北極星を示す「経営ビジョン」

本校では、校長の示す経営ビジョンを下に、教職員が協働して授業づくり、生徒指導に取り組んでいる。その経営ビジョンは次の通りである。

「生徒のよさと可能性を伸ばす学校づくりと、学び合いのある授業を通して、思考力・判断力・表現力を高め、自立した生徒を育てます。」

下線部の言葉の定義を記し、始業式や終業式、学校だよりや学びの集会で、めざす方向とその成果を教職員と生徒に向け発信している。

①生徒のよさと可能性を伸ばす学校とは？・・・

生徒の自己肯定感を伸ばすために、生徒指導は「生徒のよさを認め励ます」ことを基本とし、指示・命令型ではなく、生徒の悩み・不安に寄り添い、相談にのり、共に考え歩む課題解決型の支援をめざし、生徒理解力・学級づくりの研修に励んでいる。本年度は、PTA講演会で、腰塚勇人氏の講話「命の授業」から、生徒を勇気づけるファシリテーターの役割を学んだり、校長が週2回配付する職員資料にある生徒指導に関する資料（信濃教育・指導時報・教育雑誌・新聞記事）を読んだりして、自らの生徒観・指導観を磨いている。

日々の職員室の会話の中で生徒の姿について語り合う姿が確実に増えてきているところに成果が見られる。生徒の胸に届く、温かい指導ができているか、生徒と共に悩み共に歩む教師であるか、自問する時に立ち返る所は、「生徒のよさと可能性を伸ばす学校」の

部分である。

②「学び合いのある授業」とは？・・・

本校では「学習においてお互い凸凹があるという前提のもと、一人では解決できない課題であっても、皆で意見を出し合う中で解決していく授業」と定義している。

そのために、「わからないことがあったら聞く、聞かれたらヘルプする」という「肯定的な依存関係」を基盤とし、「聴く」「問う」「伝える」姿勢を大事にして、「学び合いのある授業」づくりに教職員と生徒が一緒になって現在取り組んでいる。

令和元年度、校長は、1学期の始業式で「聴く」ことの意義を話し、終業式で「聴く」ことの成果を全校生徒と全職員に伝えた。2学期は「問う」、3学期は「伝える」の意義と成果を具体的に伝えた。皆でめざす北極星については、「折々に・具体的に・明確に・全体に向けて」発信していくことが大切である。

本校では、令和元年度より、全校生徒が一堂に会する始業式・終業式の前後に、「学びの集会」を行っている。研究主任が運営の中心となり、「学び合いのある授業」について皆で考え合う機会と位置付けている。本年度は、学びを深める視点として、「比べる」ことを授業に位置付けることを主として、1学期の始業式の後に、

【資料3】を基に全校生徒に具体的に説明をした。

資料3

○「学び合いのある授業」をめざします。(その1)

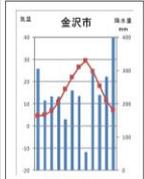
学習においてお互い凸凹したものがあろうという前提のもと、一人で解決できない課題であっても、皆で意見を出し合う中で解決していく授業をめざします。

今年の重点・・・キーワードは「比べる」

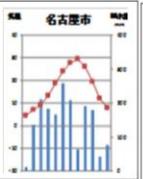
課題解決していく力を育てます。資料・方法・結果・作品・考え方・表現等を「比べる」を通して、「関連づける」「検討する」「分類する」「見方を変える」なかで学びを深めます。

2年社会科の授業を通して考えてみます。

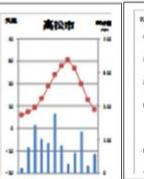
◎4地区の雨温図を比べてみましょう。(資料・グラフを比べる)



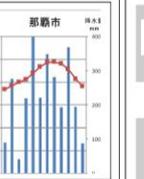
金沢市



名古屋市

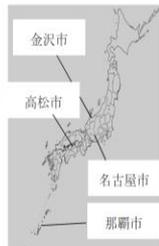


高松市



那覇市

発問「4つの雨温図と位置を見比べてみて気づくことはありますか？」



4都市の位置

A: 金沢市と名古屋市、高松市の気温のグラフの形が似ています。日本は温かい気候だな。

B: Aさんの言った3つの都市と比べると、那覇市は気温が年間通して高いです。

C: 降水量に着目すると、どの都市にも違いが見られます。金沢市は冬に降水量が多くて、名古屋市は夏に降水量が多いです。

T (先生): 「AさんやBさんの意見は、雨温図の共通点、相違点(違い)に着目した意見ですね。いくつかの資料を比べる時に、共通点や相違点(違い)に着目すると、いろんな発見ができますね」

D: 雨温図と日本地図上の位置との間に何か関係があると思います。もう少しデータがほしいです。

【その後、いくつかの都市の雨温図と日本地図上の位置を調べる活動を行う。それらと比べると】

E: 日本海側の都市の雨温図は冬に雨が多くて、太平洋側の都市の雨温図は夏に雨が多いことがわかりました。

F: 那覇市は夏に降水量が多いけど、全体的に他よりも降水量が多いのが特徴だと思います。

G: ちょっと、疑問です。なぜ、日本海側の都市は、冬雪が降り、太平洋側の都市は晴天が多いのですか？

T (先生): 「いい質問ですね。『なぜそうなるのか』という追究する姿勢はいいですね。」

H: 予想ですが、1年生の時に学習した「風」が関係しているのではないかと思います。

【この追究場面のよき】 4つの雨温図を「比べる」ことで、似ていること(共通点)を見つけると、「日本は温かい気候である」ことを読み取ることができます。違い(相違点)を見つけると、日本の中でも気候の違いがあることに気づくことができます。「同じ日本なのだから、気候は同じ」ではない！一でも、「なぜ」そんな違いがあるのだろうか？という疑問が生まれます。「比べる」ことで日本の気候について知識を深めることができますね。学び合いのある授業ではこんなやりとりが生まれます。

ば、自ずと事前指導・当日指導・事後指導が、「指示・命令型、結果主義的なもの」から、「プロセスを大事にした課題解決型」に変わることが期待できる。

さらに、今年の生徒会活動においては、各委員会の活動計画案に「自立した生徒」の姿のA、B、Cの視点が表記されていることに驚く。例えば、

○生活委員会の挨拶運動：A・B

○ボランティア委員会のアルミ缶回収、保健委員会のタオル集め：B・C

○清掃委員会の学期末清掃：A

などである。生徒達の意識に少しずつ浸透していることはありがたいことである。「自分で考えて判断する学校」の中で、「自分で考え判断する生徒」が育ち始めていると前向きに評価したい。

(2) 物事を柔軟に思考する教師 具体的に創造することを楽しむ教師

コロナ禍の中、めざす北極星にどう迫るか、我々教師自身に問いが向けられた。しかし、「壁がある だから行く」・コロナ禍「にも拘わらず」・厳しい状況「だからこそ」の精神で取り組む、本校の教職員の思考は柔軟で頼もしい。

具体的に対応した事例を記してみたい。

○2年 西駒登山を地元「萱野高原 日帰り登山」に変更。

「A 自分と向き合う登山」「B 仲間との関係を築く登山」のねらいは維持。

○2年 職場体験学習の代替プラン「わくワーク箕輪」を創設。25 事業所が2つの体育館にブースを開設。職場体験学習のねらいを重視したプラン。

○1年 福祉体験学習 1回開催を4回に増設。車いす体験・アイマスク体験・点字体験・手話体験を全員が行い、体験を通して障がい者の立場を理解する思い切った学習展開を実践。

○3年 生徒会の最大行事「ふきはら祭」(文化祭) 通常の2日開催を、4期にわたる2.5日の分散開催で実施。準備期間を考慮した柔軟性のある判断。

○3年 修学旅行を3月15～17日に延期。卒業式は3月18日。「翌日が卒業式でも、あの子たちなら、自分で考え判断して行動できるはずです。『生徒の自立』をテーマに3年間育ててきた学年ですから」と語る3学年主任の言葉。教えるべきは教え、後は生徒を信じ、任せる所は任せて、生徒を育ててきた自負心。本校のめざす教育の具体である。

苦境に陥った時、本校の先生方は、従前のやり方にこだわらず、生徒のために何が最善かを考え、善後策を具体的に提案する柔軟性がある。しかも、具体的に創造することを楽しんでいる。課題をどう解決すればよいか、「課題解決力」を発揮する「よき見本」として生徒と接している。「自分で考え判断する学校」では、まずは教師自身が「自分で考え判断する」体に体質改善する必要がある。その取組は、コロナ禍での一年間の教育活動を通して、確実に前進している。そのことを、「自立した生徒」の育ちの姿を通して確認してみたい。

生徒の姿ウ：「自立した生徒」の育ちの姿から

(1)「にも拘わらず」「だからこそ」の精神で取り組んだ生徒会の頼もしさ

コロナ禍の中、通常の活動が中止・延期・縮小せざるをえない状況は、生徒会活動でも同様であった。しかし、本校の生徒たちは、そのことを愚痴ったり嘆いたりせず、どうすればその活動が実現できるのかを考え、知恵を絞り、工夫をしながら一年間の生徒会活動に取り組んだ。苦しい状況「にも拘わらず」厳しい状況「だからこそ」の精神で取り組んだ生徒会のメンバーと顧問の先生方の「頼もしさ」を強く実感した。その具体を、ふきはら祭の実践を通して振り返りたい。

① 日程の厳しさを逆手にとった4回の分散開催

例年なら、9月の最終週の金・土の2日間での開催。しかし今年はコロナ禍の影響で、1学期の音楽の授業が十分に実施できず、合唱コンクールへの取組が日程上厳しいとのこと。例年通りに運営できない状況下、顧問の先生と本部役員で分散開催案が提示された。9月末の金曜日、10月初旬の金曜日2回の半日開催と、10月末の金曜日に合唱コンクールの4時間開催するという合計2.5日の分散開催案である。1ヵ月間にわたる開催期間で、全校生徒の文化祭に対する意識は保たれるのかという懸念に対しては、その間、本年度の生徒会スローガン「箕中プライド」で貫くことで乗り切れるはずとのこと、「にも拘わらず」「だからこそ」の真骨頂が発揮される場になれば、自ずと生徒たちは育つ、この方向でいくことが確認された。

【実際の内容】

- 1 9月25日(金)午前中 開祭式、意見発表会、文化部発表①
- 2 10月2日(金)午後 文化部発表② 合唱部・吹奏楽部発表
- 3 10月9日(金)午後 スポーツフェスティバル
(雨天で学年別、2つの体育館で分散開催)
- 4 10月23日(金)4時間 合唱コンクール、閉祭式

② 全校生徒のモチベーションを上げた生徒会役員による、お昼の放送での「本気度」

例年であれば「2日間に全力投球」のはずが、本年度は分散開催、学級の団結力を示すスポーツフェスティバルと合唱コンクールの間が2週間も空いていて全校生徒のモチベーションが今一つ上がらない状況を察知した生徒会役員が動いた。開催3週間前からのお昼の放送での呼びかけである。文化祭に直結する活動への参加態度を高めようと熱く語る委員長、日常の係活動の充実が文化祭の成功につながることを訴える委員長、それぞれがグラフや資料を用いて具体的に説明。カメラを見据えた真剣なまなざしとNO原稿での力強いメッセージの発信。ここから徐々に全校生徒の士気が上がる。主体的に取り組む生徒の姿が全校生徒を動かした。頼もしい生徒達である。

③ 感動が伝わる合唱コンクールの歌声

準備期間があまりとれず、また当日雨天となり、環境面での心配の声もあったが、生徒たちの歌声はその杞憂を吹き飛ばすのに十分であった。次の審査委員長の3年生の合唱の講評が全てを物語っている。

「3年生の学年合唱「聞こえる」の第一声を聴いた時、体育館の空気が変わった。町内5

4 まとめ

With コロナから、after コロナを迎えた時に、学校が「与え続けたり、人の指示を待っていたりするような教育」に逆戻りしないよう、「自分で考え判断する」学校づくりを推進するという覚悟(取組ア)と具体的な手だて(取組イ)が必要であることが見えてきた。

本校では現在、『『自立した生徒』を育む学校カリキュラムを創造していく』という思いを根底に置いた上で、令和3年度の学校づくりに向けて全職員が4つのプロジェクトチームに分かれて具体的に動いている。

A：「学び合いのある授業」充実チーム

B：「考え、議論する『道徳科』の授業づくり」推進チーム

C：「箕輪中 部活動のあり方」検討チーム

D：「自己肯定感を育む」生徒指導対応チーム

心がけている点は、「①『充実』『検討』『推進』をキーワードとして、前年度踏襲、過去の実績、今までこうだったという考えにこだわらず、10年、20年先に生きる生徒達にとって必要な資質・能力を育むことを大事にする。②我々が思考停止にならぬよう、柔軟に創造的にアイデアを出し合う。『具体的に創造することを楽しむ』気持ちで取り組む。」である。

そんな中、「学び合いのある授業」充実チームでは、「学び合い」に必要な問いの開発・「深い学び」を誘う問いの開発に取り組み、具体的な事例を収集している。研究主任は、3月中旬に令和3年度の「箕輪中 学び合いのある授業づくり」のガイドラインを作成し、4月当初の職員会の中で、研修の時間をとり、全職員で共通理解した上で、4月からの授業に備えたいと構想をもっている。教頭は、4月当初の日程に職員研修を3回位置づけ、学校経営ビジョンとグランドデザインの内容の理解、授業づくりのあり方、生徒指導・生徒理解について同じ方向で取り組めるよう、「研修を主とした職員会のあり方」を検討している。

「自分で考え判断する」学校づくりには「学び続ける教師の存在が不可欠」である。「自立した教師」をめざした研修を今後も継続していく所存である。